



地震発生時の行動パターンを確認しましょう！

震度6強 シミュレーション

震度6強の地震をイメージしましょう。

(家の耐震化あり／家具の固定ありの場合)

ある日あなたはリビングでテレビを見ていました。
突然テレビから「緊急地震速報」が流れました。



① ：他の部屋には家族がいます。どうしますか？

A **速報を大声で伝えましょう。**

→まずは大声で家族全体に知らせることが大切です。

- ・ 緊急地震速報が出たあと、地震が到達するまでわずかな時間しかありません。速報を見たり聞いたりしたら、何を言うか、何をするのか事前に家族で話し合しましょう。

「地震がくるぞー！」あなたは速報を大声で家族に伝えました。

② ：コンロには煮立っている鍋があります。どうしますか？

A **何もせず熱湯の危険がおよばない場所へ避難する**

→鍋の中の熱湯や熱い油から遠ざかることが大切です。

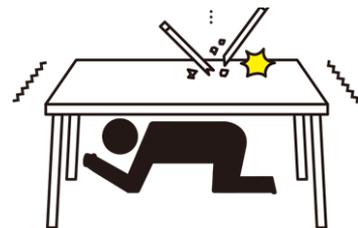
- ・ 緊急地震速報の後、地震到達までの時間がわからない状況では、火傷にならないようにするため、煮込んでいる鍋が落ちてきても影響がない場所まで避難することが、もっとも危険度が低いです。コンロの火がついたままでも、震度5以上の揺れを感知すれば自動的にガスは、止まるメーターが多くなっています。もし、火が出てしまったら、慌てず初期消火につとめましょう。

③ ：あなたは自分の身の安全を確保しなければなりません。どうしますか？

A **強度のあるテーブルの下などに入る**

→まず頭と目を守りましょう。

- ・ もし外にいる場合は、カバンなどで頭を守ることを意識しましょう。必ずしも強度のあるテーブルの下が、安全というわけではありません。建物が倒壊した際には、テーブルがつぶれる可能性があります。



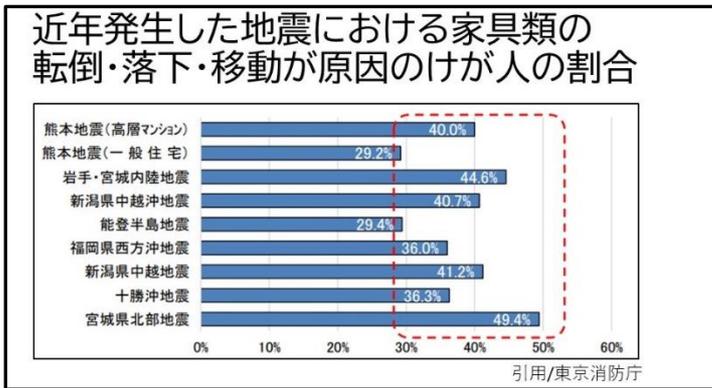
家は耐震強度があったおかげで倒壊せずすみましたが、電気・ガスなどのライフラインは止まってしまいました。

★家具は壁に固定してあったため、倒れずにすみしました。

家具は固定しておきましょう！

地震による怪我の約3～5割は、家具の転倒・落下・移動が原因です。

怪我を防ぐために、家具を固定しておきましょう。



「おーい！みんな大丈夫かー」あなたは家族の身の安全を確認するため大声で叫びました。 家族の安全を確認することができました。

④ : あなたは逃げ道を確保するため、散らかった家の中を移動しなければなりません。どうしますか？

A スリッパを履いて移動

→足の裏を保護しましょう。

・ 素足のままで散乱したガラスの破片で足の裏を切り、避難できなくなってしまう。スリッパを履くことが最も安全ですが、無い場合には雑誌や新聞などを床にひいたりして、足の裏をカバーするのもよいでしょう。

玄関などの扉を開けて逃げ道を確保することができました。

⑤ : 隣近所の安否確認を行います

隣近所の安否確認をスムーズに行えるように、日頃からコミュニケーションを取るようしましょう。



⑥ : 情報の入手

家の倒壊はないので、落ち着くまで待機して、テレビや携帯ラジオで、地震関連の情報を収集することにしました。

⑦ : ライフラインが止まり飲料水も確保できません。そのため、家族で避難難所へ行くことにしました。どうしますか？

A 電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓をしめる

→ 電気はブレーカーを落とし、通電火災を防ぎましょう。また、ガスについては、キッチンの元栓ではなく、外にある大元をしめましょう。

また、避難ルートは、余震によりブロック塀などが崩れる可能性もあることから、なるべく避けるルートで避難しましょう。